

## 可部で選手ら招き教室 コイの技しっかり体感



守備の際の姿勢やキャッチのことを説明する  
安部選手（右端）と、指導に聞き入る児童

広島東洋カープの選手やコーチ5人を招いた少年野球教室が、広島市安佐北区の可部小であった。広島小学生ソフトボール連合会に所属する20チームの計約260人が、憧れの選手の技を学んだ。

児童は4グループに分かれ、安部友裕内野手、磯村嘉孝捕手、床田寛樹投手、永井敦士外野手、広瀬純コーチから守備や投球、トスバッティングの指導を受けた。選手から「体を大きく使って全身で投げるよう意識して」「どんな打球が来るか分からない。しっかり構えて真

ん中で捕って」とアドバイスを受けていた。

野球を始めたきっかけやグラブの使い方などについて選手と語らう場面も。チームでのポジションは捕手の落合小6年安村温人君(12)は「安部選手から『ボールを投げる時は相手の気持ちになって』と教えてもらったことが印象に残った」と話していた。

同区の社会福祉法人「可部大文字会」が主催。子どもの健全育成を目的に、2011年から毎年開いている。（加納亜弥）